

赤穂市スポーツ推進計画にかかるパブリックコメントの回答（案）

番号	頁	項目等	要望・意見等	検討委員会としての考え方
1	3	2 計画の位置づけ	「スポーツ基本計画」「生涯スポーツ社会」等関係計画の摘要要点を資料として添付してはどうか。	「スポーツ基本計画」「生涯スポーツ社会」等関係計画の摘要要点の資料添付は特に考えておりませんが、P3の計画の位置づけに記載してありますとおり、赤穂市スポーツ推進計画は、「スポーツ基本計画」の理念にのっとり、本市の特性に応じた独自のスポーツ施策を策定してまいりたいと考えております。
1	3	3 計画の期間	計画の期間は、平成24年度の誤りではないか。	「赤穂市総合計画」及び「赤穂市教育振興基本計画」の計画期間と整合するため、開始年度を平成23年度としています。
1	8	第3章 赤穂市のスポーツの現状と課題	計画策定の趣旨で、生活習慣病対策にスポーツの役割を認識しているのに、現状と課題で、本市が県下で最高の医療費の多い市として問題になっていることが認識されていない。医療費の削減を最大の課題とすべきではないか。	P38の医療等機関に記載してありますとおり、医療費の削減につなげるため、今後は、生活の中にスポーツを効果的に取り入れることにより、過度な医療に頼らないスポーツ先進都市の実現に向けて推進してまいりたいと考えております。
1	8	3 高齢者のスポーツ	高齢者の保健事業として「太極拳」に取り組んでいる自治体がある。当市も助成金を投入して広めるべきで、医学的に評価されているスポーツを重点的に振興すべきではないか。	赤穂市スポーツ推進計画では、「太極拳」など特定の種目を限定せず、市民のニーズに合った多種多様なスポーツを通じて、健康の保持増進を推進してまいります。
1	8	4 スポーツ施設	海浜公園の天然芝が活用されていない。	海浜公園の芝生広場は、個人やグループをはじめ、グラウンドゴルフ大会やスポーツ交流大会等で活用されており、今後も、市民の身近なスポーツ活動拠点として利用を推進してまいります。
1	8	4 スポーツ施設	尾崎・御崎地区の多目的運動施設整備として、人工芝の広場を作る計画があるようだが、人工芝は怪我につながるため、天然芝にすべきである。	人工芝では摩擦による擦過傷が発生する場合がありますが、多目的施設としては、全天候型の人工芝の方が天然芝に比べて、天候や気候に左右されず、より効率的・効果的に利用できるものと考えております。

赤穂市スポーツ推進計画のパブリックコメント（案）

番号	頁	項目等	要望・意見等	検討委員会としての考え方
1	2 1	(2) 競技力向上の促進	ランニングはすべてのスポーツの基本である。現在、当市の陸上競技関係のレベルはどのような水準にあるのか公表されていない。比較は県・国の水準と比較で評価すべきであり、仮に他市のレベルより劣るならば、重点的に向上を図るべきである。	現在、競技別・種目別の国・県との比較統計がないため、陸上競技関係のレベルの評価はできませんが、陸上競技を含め、赤穂市全体の競技レベルの向上を図るため、各種団体が主催する競技大会や、小・中・高・大におけるスポーツの連続性と一貫指導を推進し、学校の部活動を含む競技団体のレベルアップを図ってまいります。
1	3 4	5 スポーツシーン創出プログラム	陸上競技人口増加対策として、中学校区の小学校対抗駅伝競技を提案します。	陸上競技人口増加対策としては、限定された中学校区による駅伝大会等の開催ではなく、城南緑地陸上競技場で多くの小学生が参加している陸上競技協会主催の陸上教室や、幼児から高齢者まで参加できる赤穂シティマロン大会等を通じて、陸上競技人口の増加と競技力の向上を推進してまいります。
1	3 6	スポーツ団体協働プロジェクト	個人的に陸上競技を長く続けているので、その経験を活かしたい。	P 3 6のスポーツサポーターの組織化とスポーツ団体との連携に記載しておりますとおり、今後は、スポーツ活動の新しい参加形態として、スポーツサポーターの組織化に取り組んで参りますので、サポーターの一員として是非ともご協力をお願いいたします。
2	2 1	(2) 競技力向上の促進	赤穂市はスポーツ施設が多くあり恵まれているが、各スポーツの指導者や選手の層が薄いと感じています。レベルの高いスポーツを目指す選手と情熱ある指導者の育成ができる環境づくりを具体的に計画の中に盛り込んでいただきたい。	P 2 1の競技スポーツ指導者の確保に記載しておりますとおり、レベルの高いスポーツを目指す選手と情熱ある指導者の育成ができる環境づくりを図るため、今後は、体育協会や指定管理者と連携し、層の厚い指導者を確保するとともに、これらの人材を活用した講習会の開催などにより、スポーツ団体の指導者のスキルアップを推進してまいります。
3	2 1	(2) 競技力向上の促進	小・中・高・大との連携による、スポーツ団体の育成強化と示されていますが、連携が取られていない現状が見受けられます。特にバレーが繋がっていないようなので、一貫した取り組みを具体的にできないでしょうか。	P 2 1の競技力の促進に記載してありますとおり、今後は、小・中・高・大におけるスポーツの連続性と一貫指導をさらに推進し、体育協会と連携した積極的な指導者派遣により、特定種目に限らず、クラブ活動や部活動全体の育成と強化を推進してまいります。

赤穂市スポーツ推進計画のパブリックコメント（案）

番号	頁	項目等	要望・意見等	検討委員会としての考え方
4	26	(1) 公共スポーツ施設の有効活用の促進	学校や地域体育館施設の充実について、地元の体育館が空いていないとき、他のどこの体育館でも使用できる環境が必要だと感じています。	地区体育館は、地域住民のスポーツ活動の拠点として、地域住民のクラブやサークルが定期的にスポーツ活動を行っていますが、今後は、P26の公共スポーツ施設の有効活用の促進に記載してありますとおり、多様化するスポーツニーズに応えるため、学校体育施設を含めた公共スポーツ施設の有効活用を推進してまいります。
5	31	2 総合型地域スポーツクラブ育成プロジェクト	総合型地域スポーツクラブを育成するとなっているが、実際はスポーツクラブ2と小学校と連携ができていないように感じられます。	P31の総合型地域スポーツクラブ育成プロジェクトに記載してありますとおり、総合型地域スポーツクラブの育成にあたっては、既存のスポーツクラブ2を基盤に、幼・小・中学校やスポーツ関係団体、地域住民、まちづくり関係団体、企業と連携した運営体制を構築し、地域住民の健康増進と、地域コミュニティの活性化を推進してまいります。
6	8	第3章 赤穂市のスポーツの現状と課題 1. 子どものスポーツ	「子どものスポーツ」の中で、学校だけでなく地域でスポーツを楽しめるようにするとありますが、地域や校区にかかわらず、いつでも、どこでも、誰とでも参加できる大きな広い目で赤穂のスポーツを考慮して欲しいと思います。	P8の子どものスポーツに記載してありますとおり、幼児期から少年期にかけての外遊びやスポーツの体験は、身心の健全な育成・発達に大きな影響を与えるとともに、成人後の豊かなスポーツライフを築くための基盤となります。そのため、スポーツに親しめる環境整備として、市民の誰もが自分に合ったスポーツを楽しむことのできる総合型地域スポーツクラブの育成や、スポーツ少年団の育成を積極的に推進するとともに、体育協会や指定管理者による市民総合体育館でのスポーツ教室の充実や、スポーツイベントの開催を推進してまいります。

赤穂市スポーツ推進計画のパブリックコメント（案）

番号	頁	項目等	要望・意見等	検討委員会としての考え方
7	7	2 赤穂市の地域特性	<p>赤穂市の地域特性の中に、「赤穂市には多くの公共のスポーツ施設があります」と書かれています。</p> <p>現在、赤穂市では地元市民のスポーツ交流大会は多く実施されているようですが、他市・他県のチームを招待してのスポーツ大会は少ないように感じられます。他県や他市との交流試合、招待試合などは、地域活性化にも大いに役立ち効果がある事と思います。</p> <p>これからは、赤穂市の活性化のためにも、赤穂市のスポーツ施設を今まで以上に有効に活用し、視野を広めて多くのスポーツ種目や子どもたちのスポーツ大会に利用できるよう検討してください。</p>	<p>現在、赤穂市では、市内外や全国各地から多くの選手を招いて、赤穂シティマラソン大会や、近畿高等学校剣道選抜大会、忠臣蔵旗少年剣道大会、赤穂義士杯青少年柔道大会などの広域大会や、高校野球親善試合などの招待試合を実施していますが、今後さらに、赤穂市の活性化を図るため、赤穂市民総合体育館や赤穂城南緑地運動施設等の公共スポーツ施設を有効活用し、体育協会をはじめ、さまざまなスポーツ団体や小学校・中学校・高等学校と連携して、広域大会や親善試合などの交流大会を積極的に推進してまいります。</p>
8	3 6	青少年スポーツ団体の育成強化と小・中・高・大との連携	<p>日本全体ではメダリスト養成のためのスポーツ（アスリート）事業計画などを立てているが、赤穂市スポーツ推進計画では、多くの市民が健康的にスポーツをすることに重点が置かれている。このことは、高齢者の人たちにはよいが、未来を担う子ども達のために、競技力の向上や勝利感を養う環境づくり、バックアップ体制が強く求められたい。特に、小学生の時にしっかりと指導者のもとで磨かれていないと、中学校で部活動をしなくなり、エネルギーが非行の方へ向かう例が見受けられます。</p>	<p>赤穂市スポーツ推進計画は、市民一人ひとりが目的に応じて「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現を目指しておりますが、P21の競技力向上に記載しておりますとおり、特に青少年の競技力向上につきましては、小学校・中学校・高等学校・大学との連携によるスポーツの連続性と一貫指導を推進し、部活動の育成強化と指導体制の充実を図ってまいります。</p>